

(1 1) 勤労センター

1) 施設概要

① 施設一覧

本市では、勤労者をはじめ市民の福祉を増進する施設として、勤労センターを設置しています。勤労センター内には、研修施設や宿泊施設、スポーツ施設を併設しています。

図表 施設一覧

名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築 年度 (年度)	構造 (主たる建物)	備考
1 勤労センター	小牧市大字上末2233番地2	6,459.8	昭和57	鉄筋コンクリート	

② 事業内容

勤労センターでは、施設の維持管理及び運営、施設利用の受付並びに許可、使用料金の徴収及び関連する事務を行っています。

③ 開館時間等

開館時間	休館日	開館日数
午前 9 時から午後 9 時 30 分まで	年末年始、保安点検日	356 日

④ 利用方法

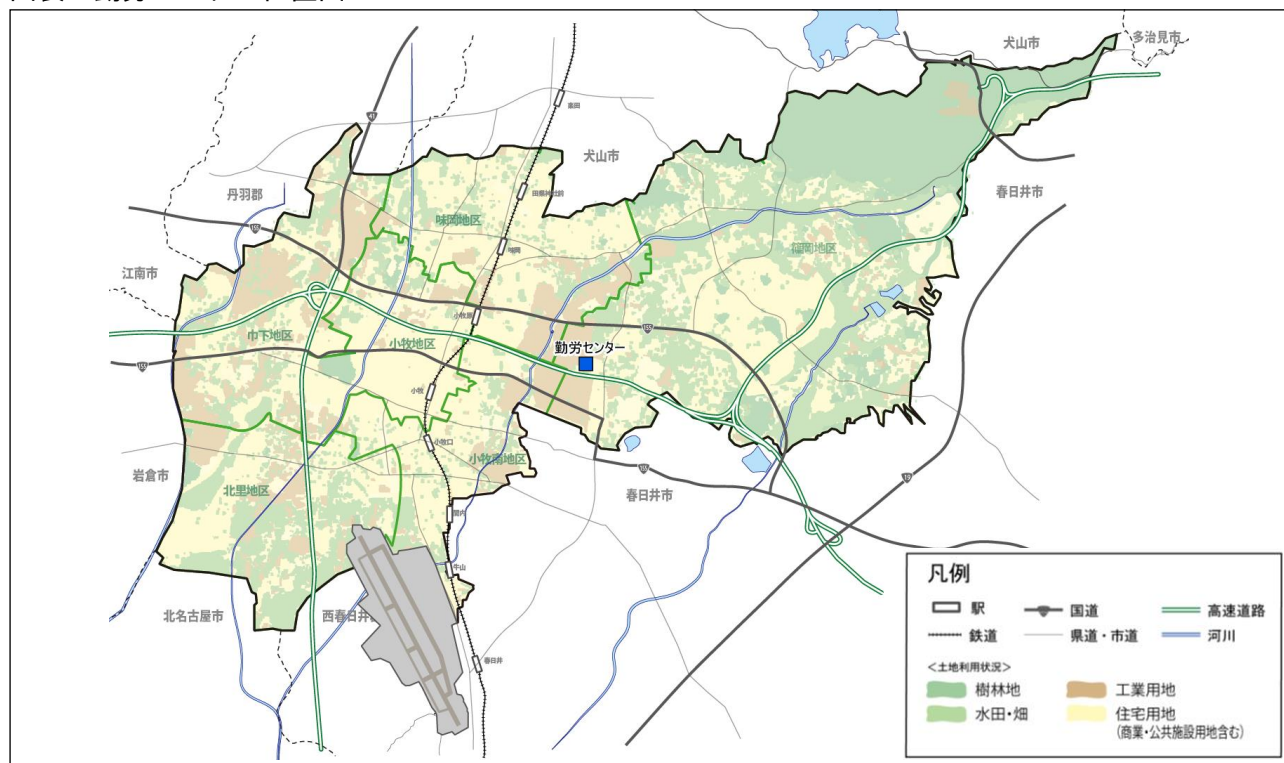
研修宿泊室は利用する日の 3 ヶ月前の第 1 日から、体育施設は 2 ヶ月前の第 1 日から、テニスコートは 2 ヶ月前の 20 日から電話または窓口で受付します。

利用制限はありません。

使用料は有料です。

⑤ 配置状況

図表 勤労センター位置図



⑥ スペース構成

勤労センターの延床面積は6,460 m²で、研修施設 2,259 m²、集会施設 151 m²、宿泊施設 1,467 m²、体育館 2,208 m²、そのほか事務室等で構成されています。

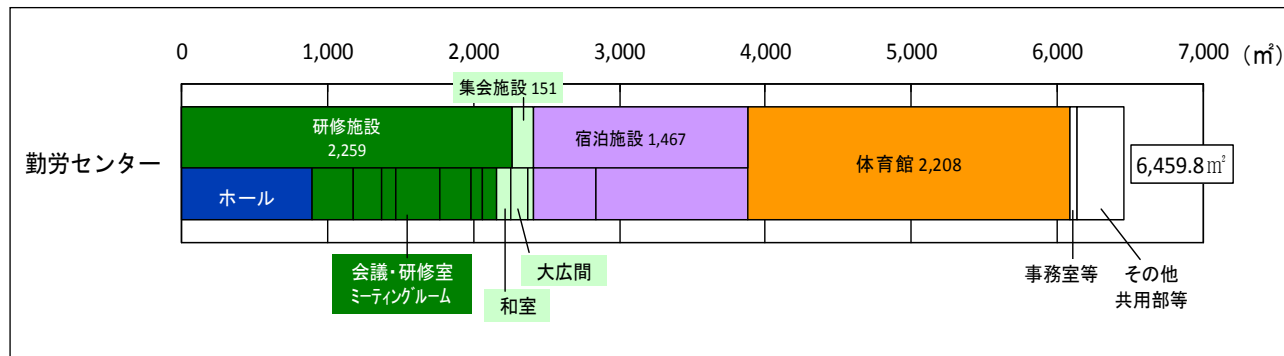
研修施設は、ホールと会議室・研修室、和室を保有しています。

集会施設は、大広間等の和室を保有しています。

宿泊施設は、一般室 12 室、特別室 4 室を保有しています。

体育館のほかに、テニスコート、グラウンドを有しています。

図表 スペース構成(平成 24 年度)



2) 実態把握

① 建物状況

■ 勤労センターの建物総合評価結果

平成 25 年度の勤労センターの建物状況について評価を行いました。

No.	施設名	基本情報		① 耐震化	②老朽化			③バリアフリー対応						④環境対応		⑤維持管理(H24年度)						
																維持管理費(千円)			床面積当たり(円/㎡)			
		建築年度	延床面積 (㎡)	耐震改修	築年数	直近の大規模改修	規模改修後または直近の大規模改修年数	エレベーター※1	車いす用トイレ	障がい者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	トイレの洋式化	自然エネルギー・太陽光発電の導入	屋上・壁面緑化等	環境対応設備※2	光熱水費	建物管理委託費	各所修繕費	光熱水費	建物管理委託費
1	勤労センター	昭和57	6,460	—	31	—	31	○	○	○	○	×	○	○	×	○	指定管理委託料に含まれるため 評価対象外とする					

①、③、④の記載例	実施済み：○ 未実施：× 不要：—	※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等の設置 ※2 節水型便器、高効率照明器具・LED照明、雨水・中水設備 ※①の「不要：—」には、耐震診断の結果耐震化が不要な施設と新耐震基準施設のため不要な施設が含まれる。
-----------	-------------------------	--

勤労センターは、耐震安全性は確認されていますが、築 31 年が経過しており老朽化が進行しているため、大規模改修工事等の対応が必要な施設です。(パターンB)

パターンB 老朽化

・かなり老朽化が進行している

該当施設 建築年度
勤労センター 昭和57

< 1 施設 >

・老朽化がかなり進行しており、大規模改修工事などの早急な対応が必要です。

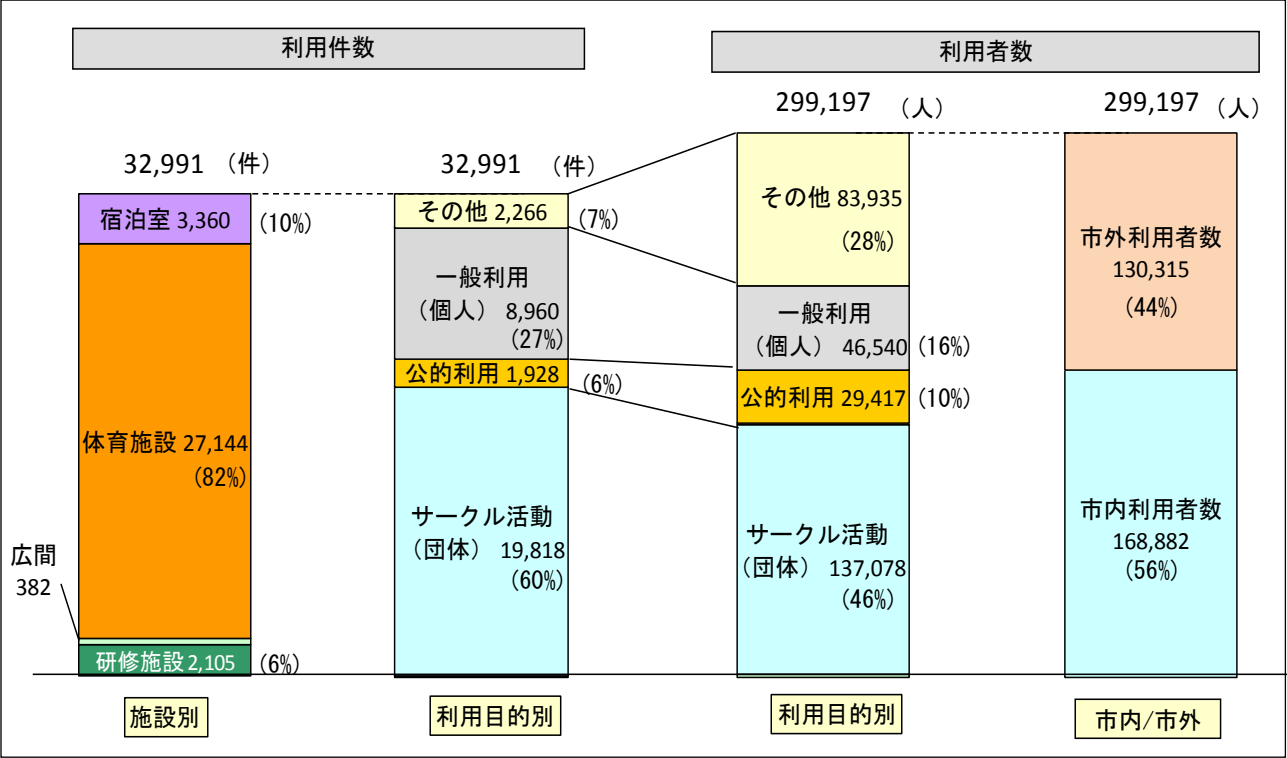
② 利用状況

■ 年間利用件数・利用者数

利用件数は年間 3 万 2, 991 件、利用者数は 29 万 9, 197 人です。

利用件数の利用目的別の内訳をみると、サークル活動が約 60%を占めています。次いで、一般利用（個人）が約 27%を占めています。施設別の内訳をみると、体育施設が約 82%、次いで宿泊室が約 10%を占めており、次いで研修施設が約 6%を占めています。

図表 年間利用件数・年間利用者数（平成 24 年度）



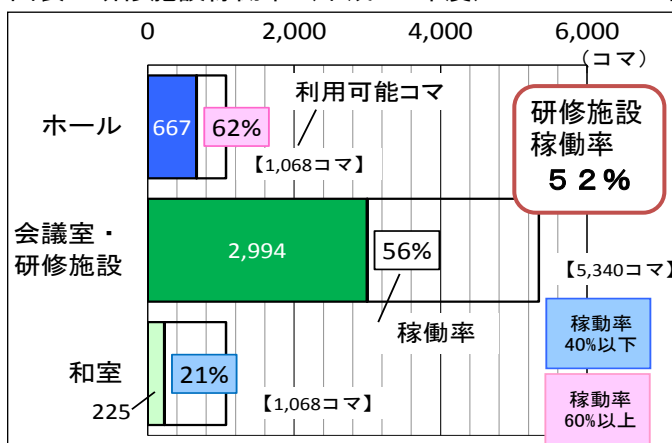
■ 稼働率

勤労センター全体の稼働率は54%です。

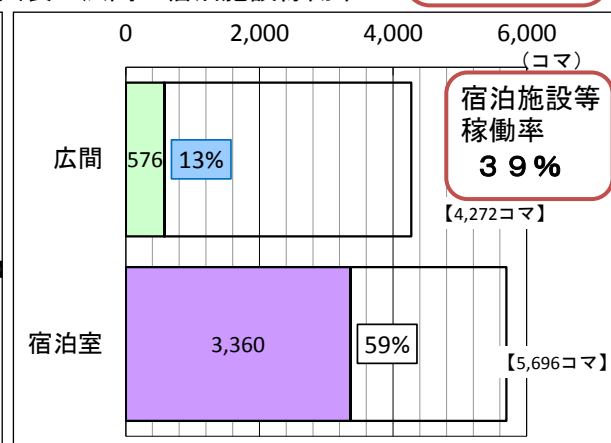
施設ごとにみると、研修施設の全体稼働率は52%です。なかでもホールの利用が62%と高くなっています。広間・宿泊施設の全体稼働率は39%です。特に広間の稼働率が13%と低くなっています。体育施設の全体稼働率は57%です。体育館の稼働率は66%と高くなっていますが、ミーティングルームやグラウンドが24%と低くなっています。

勤労センター
全体稼働率
54%

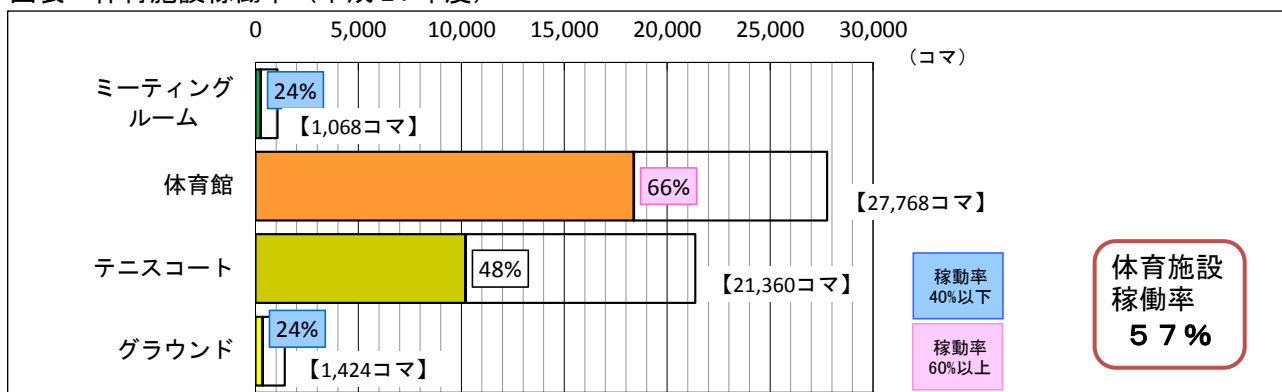
図表 研修施設稼働率（平成24年度）



図表 広間・宿泊施設稼働率



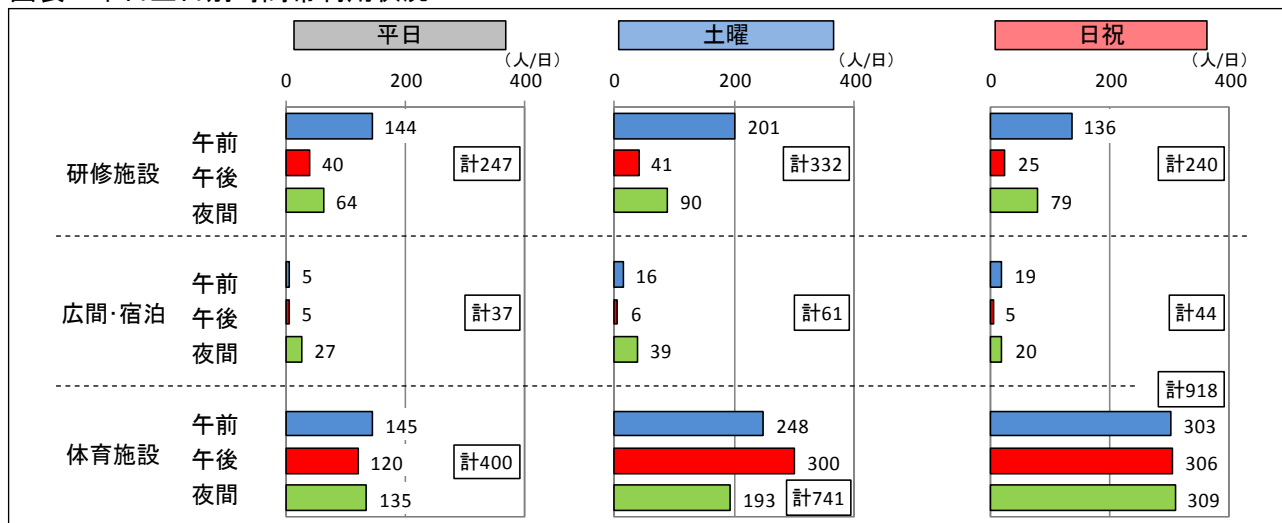
図表 体育施設稼働率（平成24年度）



■ 時間帯別利用状況

時間帯別の利用状況をみると、研修施設は平日、土日祝日も午前中の利用が多く、体育施設は平日に比べ週末の利用が多くなっています。広間・宿泊施設は他施設に比べ利用が少ない状況です。

図表 平日土日別時間帯利用状況



■ 利用推移

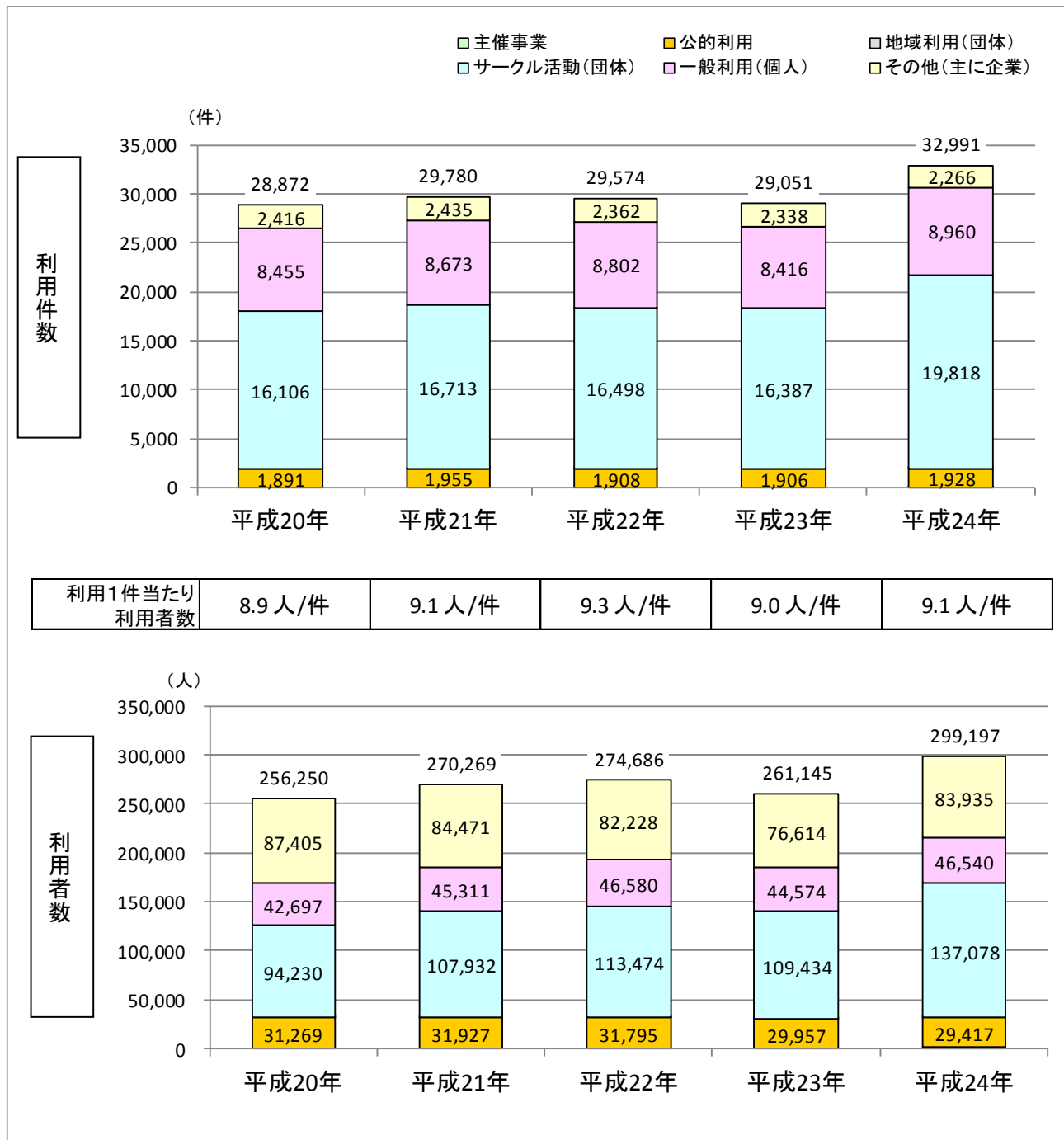
利用件数の推移をみると、2万8,872件から3万2,991件で推移しています。平成24年度は前年度と比較して約14%増加しています。

利用者数は、25万6,250人から29万9,197人で推移しています。平成24年度は前年度と比較して約15%増加しています。

利用1件当たりの利用者数は、直近の5年間は8.9人/件から9.3人/件とほぼ横ばいとなっています。

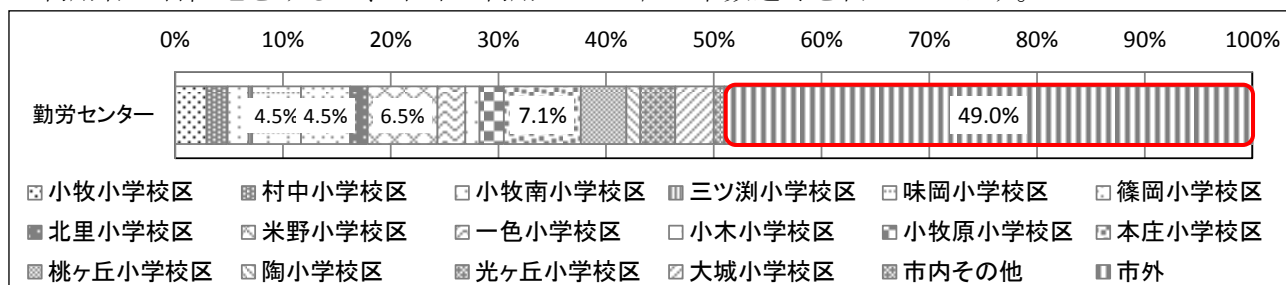
利用目的別の内訳は、毎年ほぼ同様にサークル活動が過半を占めています。

図表 年間利用件数・利用者数の推移

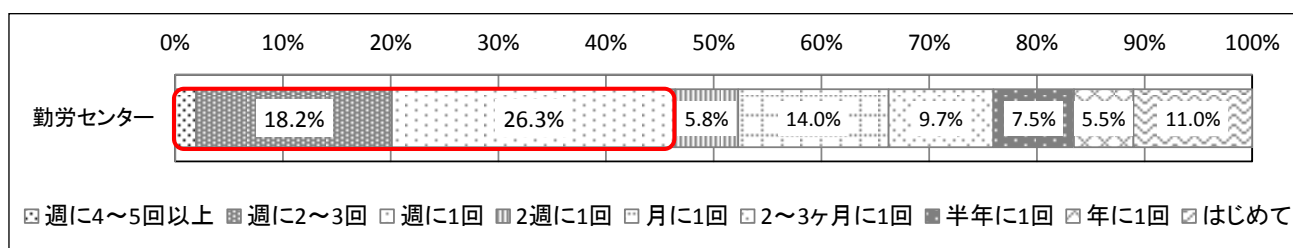


■ 利用者アンケート

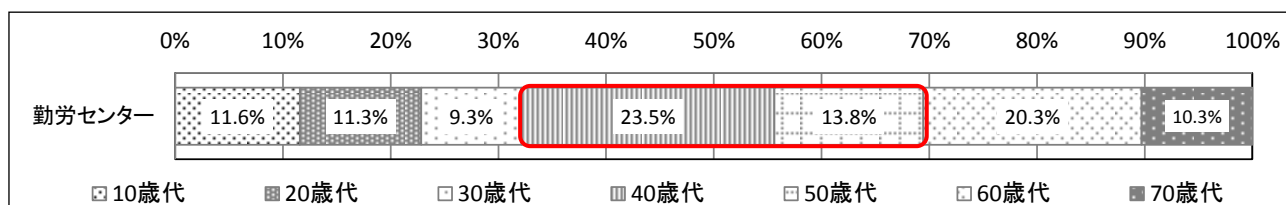
利用者の居住地をみると、市外の利用が49.0%と半数近くを占めています。



利用頻度をみると、週に1回以上の利用が46.4%と定期的な利用が多いことが分かります。



利用者年代をみると、幅広い年代の利用がある施設ですが、特に、40歳代から50歳代で37.3%となっています。



■ 運営状況

勤労センターは、指定管理者制度で運営しています。

指定管理者職員は、16 人が従事しています。

図表 運営人員（平成 24 年度）

（人）

		勤労センター
運営形態		指定管理
施設維持管理	パート職員	5.0
	計	5.0
施設利用に関する受付・案内	一般職員	4.0
	臨時職員	7.0
	計	11.0
合計	一般職員	4.0
	臨時職員	7.0
	パート職員	5.0
	合計	16.0

■ 運営体制

一般職員及び臨時職員、パート職員が 16 人従事しています。

一般職員と臨時職員は、変則勤務・交代休日で従事しています。

パート職員は、曜日変則勤務・交代休日で従事しています。

土・日曜日・祝日の運営も、平日同様の運営体制で従事しています。

図表 運営体制（平成 24 年度）

勤労センター		8:00	10:00	16:00	22:00
平日（月～金） 土・日曜日・祝日 運営体制 16人		一般職員（指定管理者職員） 3～4人 ※1			
		臨時職員（指定管理者職員） 6～7人 ※1			
		パート職員（指定管理者職員） 5人 ※2			

※1 変則勤務・交代休日

※2 曜日変則勤務・交代休日

③ コスト状況

■ 指定管理者のコストとあわせたコスト状況

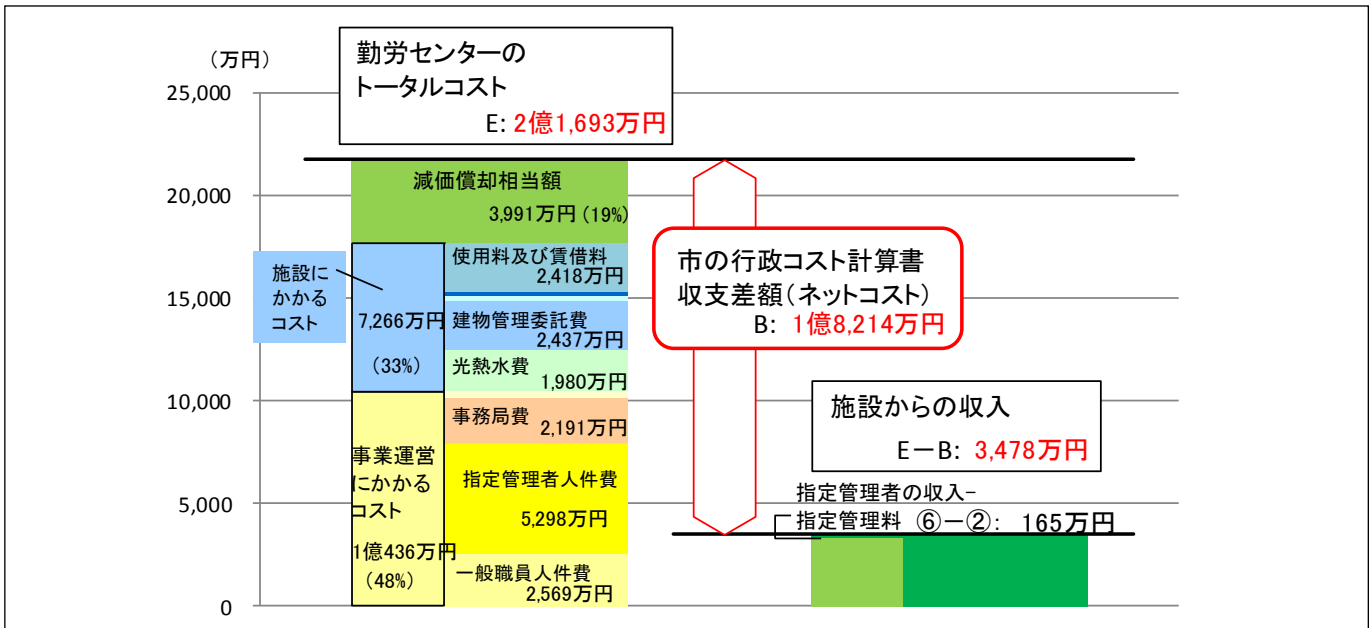
市のコストと指定管理者のコストをあわせて整理した勤労センターの年間トータルコストは、2億1,693万円です。

年間トータルコストのうち、施設にかかるコスト（修繕料、光熱水費等）は7,266万円（33%）、事業運営にかかるコスト（人件費、その他委託費等）は1億436万円（48%）、減価償却相当額は3,991万円です。当該施設から年間3,478万円の収入があります。

図表 市及び指定管理者の行政コスト計算書（平成24年度）

		(円)			(円)
市の行政コスト計算書	I. 現金収支を伴うもの【コストの部】	勤労センター	I. 現金収支を伴うもの【コストの部】	勤労センター	
	施設にかかるコスト		施設にかかるコスト		
	改修費	1,858,500	修繕料	2,446,794	
	光熱水費	0	光熱水費	19,802,702	
	建物管理委託費	0	建物管理委託費	24,369,030	
	使用料及び賃借料	15,933,576	使用料及び賃借料	8,245,220	
	施設にかかるコスト計	17,792,076	施設にかかるコスト計	54,863,746	
	事業運営にかかるコスト		事業運営にかかるコスト		
	一般職員人件費	25,693,053	指定管理者人件費	52,983,528	
	修繕費	207,291	委託費	0	
	車両・備品購入費	658,665	その他物件費	2,768,026	
	その他物件費	136,500	事務局費	21,913,375	
	事業運営にかかるコスト計	26,695,509	事業運営にかかるコスト計	77,664,929	
	指定管理料 ②	130,878,675	現金収支を伴うコスト 計 ⑤	132,528,675	
	現金収支を伴うコスト 計 ①	175,366,260	【収入の部】		
【収入の部】			指定管理料 ②	130,878,675	
使用料収入		33,051,440	諸収入等	1,650,000	
諸収入		79,800	現金収支を伴う収入 計 ⑥	132,528,675	
現金収支を伴う収入 計 ④		33,131,240	Ⅲ. 総括		
II. 現金収支を伴わないもの【コストの部】			コストの部合計(トータルコスト) (⑤)	132,528,675	C
減価償却相当額 ③		39,909,570	指定管理者収支 (⑥-⑤)	0	D
Ⅲ. 総括			市と指定管理者の純計後トータルコスト (E=A+C+D-②)	216,925,830	E
コストの部合計(トータルコスト) (①+③)		215,275,830			
収支差額(ネットコスト) (A-④)		182,144,590			

図表 勤労センタートータルコスト（平成24年度）

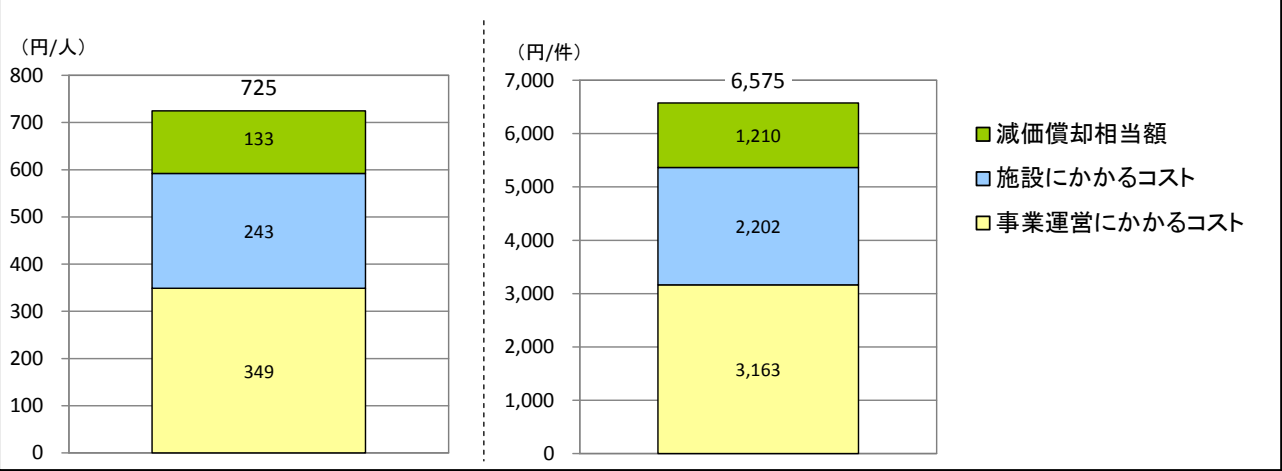


3) 評価・分析

■ 利用者 1 人あたりにかかるコスト/利用 1 件あたりにかかるコスト

年間利用者数とトータルコストから利用者 1 人あたりにかかるコストを算出すると、725 円です。年間利用件数とトータルコストから利用 1 件あたりにかかるコストを算出すると、6,575 円です。

図表 利用者 1 人あたりにかかるコスト/利用 1 件あたりにかかるコスト（平成 24 年度）



4) 今後の検討の視点

■ 施設に関する視点

- 勤労センターは、築 30 年を経過しており老朽化が進行しています。宿泊棟の改修工事やボイラー改修工事など定期的に改修を行っていますが、今後も計画的な維持管理を行う必要があります。

■ 利用に関する視点

- 現在は市外利用が全体の約 44%と多くなっていますが、平成 26 年 4 月から市内利用者増加のため予約優遇など工夫をしています。
- 研修施設は、企業の総会や研修等の利用が多く、ホールや会議室・研修室の稼働率は高くなっていますが、和室や広間等稼働率の低い部屋もあります。利用者ニーズを検証し、機能の見直し等により施設の有効活用を検討する必要があります。

